

今年こそ、一部復帰へ

「駒大？サッカー強いよね？」。大学サッカーをそこまでチェックしていない人と話しをすると、現在駒大が2部で戦っていることを知っている人は意外と少ない。それだけ、駒大IIサッカーが強い、という認識がサッカーファンの中にはあるのかもしれない。しかし、実際には今年も戦いの舞台は1部ではなく、2部である。

そんな人達に「やっぱり、駒大って強いんだね」と思わせるためにも、強豪の名を取り戻すためにも、今年こそ一部復帰が至上命題となる。ここでは、昨シーズンの課題を振り返りながら、一部復帰へのポイントとなるプレスについて見ていきたい。

■前線からのプレス

駒大のサッカーと言えば、「前線から激しくプレスをかけていく」ことが一つ挙げられるだろう。できるだけ、相手ゴールに近い位置でボールを奪えば、後方でボールを奪った時よりも手数が少なくゴールにたどり着けることがメリットとなる。ここで重要になってくることは主に3つある。

1. 運動量
2. プレスを開始する位置を決める
3. ボールを奪う場所を共有する

この3点がプレスで外せない重要な点となってくる。しかし、去年の駒大を見ると1の運動量は、ほとんどの試合でこなせていたが、2と3に関してはチームの約束事として共有されていないようだった。

まず、2の「プレスを開始する位置を決める」から見えていきたい。これが

反撃の2013シーズン、いよいよ開幕！

2013年も2部での戦いとなる駒大。汚名返上のためにも、今年こそ1部復帰を果たさなければならない。ここでは、昨シーズンを振り返りながら今季を占っていく。(猪熊脩登)



決まっていないとどういう現象が起こるのか？相手がボールを保持してパスを回している際に、どこまでもボールを追いかけ続けられ、無闇やたらに走り続けなければならなくなる。当然、90分間走り続けることは不可能であり、試合終盤には体力的に大きなハンデを負ってしまうことになりかねない。

去年の駒大はコーチ陣に話を聞いても「プレスを開始する位置は特に決まっていない」と話していたが、これが決まっていないと特に夏場の試合では苦しい戦いを強いられるだろう。

次に3の「ボールを奪う場所を共有する」を見ていく。ボールを奪う場所が決まっていなければ、ボールへ一番最初にアプローチする前線の選手がコースを限定することができず、結果的に後方の選手は的を絞ることはできず、徐々に守備ブロックが崩壊してしまう。

この点が特に駒大は弱点になりがちであった。前から奪いに行くもののコースを限定するような守備ができていなかったため、ボールを保持している相手選手には、右にも左にもパスコースが確保されている状態になっていた。そうなる、後ろでパスカットを狙っている駒大の選手としては、右にも左にもパスが出て来る状態なので、どちらにパスが来るか予測しづらくなってしまう。

■守備の構築の時間は短い

しかし、今挙げたこれらの問題点はチームで約束事として決めて練習をすれば、そこまで大きな問題にはならないはずだ。なぜなら、守備を整える時間は攻撃よりもかからないケースが多いからだ。分かりやすいのは2010年の南アフリカワールドカップの岡田ジャパンだ。大会直前まで、自分達で主導権を握るサッカーを志向していた岡田ジャパンだが、大会前の練習試合で結果が出ないと本大会では守備的に戦うことを選択し、結果は世間の予想を裏切りベスト16。駒大も守備さえ整えることができれば、前線には山本ら強力な選手を抱えているため、自ずと結果はついてくるだろう。